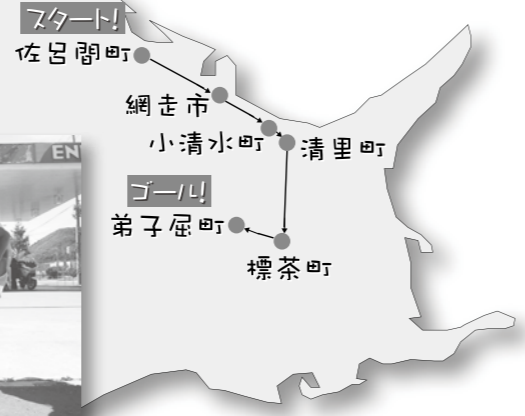


元気いっぱい！ 僕らの旅！

自ら挑戦し
達成感を
分かち合う旅



アドベンチャーツーリング2013



弟子屈町未来子ども協議会(目黒厚子会長)主催の「元気いっぱい！僕らの旅！アドベンチャーツーリング2013」が、今年も8月5日～11日の7日間にわたって行われました。

テーマは「自ら挑戦し、達成感を分かち合う旅！」。小学校1～5年生11人と、サブリーダーの中学生2人が参加し、テントでの寝泊まりや自炊を行いながら、総走行距離約200kmの自転車ツーリングに挑戦しました。

活動の目的はどこにあるのでしょうか。そして、参加した子どもたちの様子は…。

写真で活動を振り返りながら、内容を紹介します。

今年も子どもたちの挑戦の夏が
終わりました。

「元氣いっぱい！僕らの旅！」
アドベンチャーツーリング2013」
は、弟子屈町未来子ども協議会が主
催して今年で3回目。今年は小学校
1～5年生11人が参加し、非日常体
験や野外体験、仲間と協力し合う活動
を通じて、一回り大きくなりました。
こうした活動の目的はどこにあ
るのでしょうか。



テントを張ったり炭をおこしたり…「日常」や「便利」から
かけ離れたところで仲間と経験することで培われるもの

子どもたちの課題の解決 そして人づくりへ

アドベンチャーツーリングは、町
教育委員会が主催・実施していた
「てしかが冒険隊アドベンチャー
ツーリング」を、未来子ども協議会
が引き継いで行っています。町教育
委員会が3年、同協議会が3年と活
動を積み重ねてきましたが、その目
的は「人づくり」です。

- 現代の子どもたちは、次のような課題を抱えているといわれます。
- コミュニケーション能力の低下。
- 指示されないと行動できない。
- 逆境に弱い。
- 発想力に欠ける。

非日常体験や野外体験を通して 人間力のあるたくましい大人に

見守りに徹して成長を促し
共にたどり着いたゴールで
子ども笑顔をうれしく思う

「元気がない限り口や手を出し
つばい！僕
らの旅！ア
ドベンチャー
ツーリング」
は、今年で
3度目の夏
を迎えまし
た。今年
同協議会か
ら「アドベ
ンチャーツ
ーリング実
行委員会」
を立ち上げ、協議会員10
人がスタッフとなって始
動しました。

参加した子どもたちは、
第1回目の活動から非日
常体験の連続でした。グ
ループやスタート地点を
決めるときは、学校の勉
強時間よりも長い時間話
し合いをしました。私た
ちスタッフは「子どもたち
が主体となる活動を目的
としているため、見守り
が中心で、よほどのこと

- 好きなことにしか取り組まない。
- 計画を立てられない。
- 感動しない。感動できない。
- ストレスを抱える子どもが急増しているが、ストレスに耐える力を持つことができない。
- 自分を認めたり自分に自信を持つたりする、自己肯定感に欠けている。

こうした課題の原因・背景には
「社会の変化(不便のない生活環境)」「
「人間関係の希薄化(自己中心社会・
信頼関係の欠如)」「遊びや体験環境の
変化(室内型・組織化)」が考えられて
います。昔であれば、大家族や親密
な近所付き合いなどの中で自然と
身につけていったこと、恵まれない

つたりしてグループ内に
悪い空気が漂いますが、
活動3日目くらいから
『みんなと協力して頑張
る』と、気持ちの変化が
見え始めます。やっとま
まりが出てきて、これか
らだ！と思ったときには
最終日というのが毎年残
念ですが、子どもたちは
旅が自信となり、全員と
びっきりの笑顔でゴール
します。出迎えた家族が
「顔つきが変わったと驚
くほどいきいきとしてい
て、スタッフも一番うれ
しい瞬間です。スタッフは
仕事をしながら活動の
打ち合わせを何度も行っ
たので、正直負担に思うこ
ともありますが、ゴール
した子どもたちを見ると
「頑張つてよかったな」ま
た来年も頑張ろうかなど
いう気持ちになります。

この事業は、町教育委
員会が主催・実施してい
た。若しスタッフがいない
と、子どもたちがより
活発になるなどの効果も
あり、今後も継続してい
きたいと思っています。
アドベンチャーツーリ
ングのみならず、さまざ
まな体験活動の機会を子
どもたちに提供していけ
たらなと思います。



弟子屈町未来
子ども協議会
実行委員

竹内 瑛美 さん

徐々に気持ち
ちが追いつ
められてい
き、すべき
ことを投げ
出したり、
ケンカにな
る。子どもたちはサポ
ートし
てくれまし
た。また、木
名瀬道人君(弟
子屈中学校3
年)、片桐春野
さん(同1年
生)が、初めて
サブリターと
して参加。さ
らに、東直人
君(釧路工業高
等専門学校2
年)も応援に駆
けつけて
くれました。

家庭・学校・地域連携の下 豊かな子どもを育てたい

子どもたちが「人間力」を兼ね備え
た大人に成長した先にあるもの。そ
れは、その力を発揮して地域づく
りを担ってくれることだと考えま
す。つまり、人づくりは地域づく
り。そういった観点から、さまざま
な体験活動や集団活動が子ども
たちに必要だと考えています。

地域での子育ての 受け皿・窓口として

ところで、皆さんは弟子屈町未
来子ども協議会をご存じですか。
同会は2006年10月1日設立
で、現在の会員は約25人。子育て
世代のお父さん・お母さん、子育
てが一段落ついたおじいちゃん・お
ばあちゃん、保育士や元保育士、元
教師、保健師などで構成され、子
どもたちの健やかな成長を地域と
して支えるために、さまざまな活
動を行っています。



北海道教育大学
(アドベンチャー
ツーリングスタッフ)

米永 里瑚 さん

私は今まで、子どもに
関わるボランティアをい
ろいろ経験してきました
が、こんなにも子ども
ちと深く関わり、スタッ
フの方々とどうしたらよ
い事業になるかを真剣
に考えた活動は初めて
でした。本当に多くのこ
とを学びました。

子どもたちは日に日に
成長し、グループの中
で自分の役割をしっかりと
見つけ行動をしたりする
子の姿が増え、とても感
動し、やりがいがありま
す。

アドベンチャーツーリング2013の流れ

6月8日(土) 第1回目

参加者確定。自己紹介や仲間づくりのゲームなどで参加者同士の緊張をほぐした後、ツーリングのグループ分け、ツーリング中の体験活動などを決めました。



6月29日(土) 第2回目

ツーリングのスタート地点やコースについて話し合い、決定。その後、ミニツーリングと称して自転車走行の練習を行いました。



7月20日(土)~21日(日) 第3回目

1泊2日でキャンプとツーリングの練習。テントの設営や炭をおこしての食事の準備、自転車走行などを行いました。



8月3日(土)・4日(日) 第4回目

アドベンチャーツーリング本番のグループごとの目標や食事の計画を立て、必要な道具の準備や車への積み込みなどを行いました。



8月5日(月)~11日(日) 本番

町公民館での出発式の後、佐呂間町に移動してツーリングスタート。6泊7日で200kmを走破して、元気に弟子屈町に到着。



12月上旬 第5回目

活動の振り返りを行う予定です。



グループ決めについて話し合った第1回目(上)
第2回目ではスタート地点とコースを決定(中)
第3回目はキャンプの練習 食事の用意も自分たちで行う(下)

アドベンチャーツーリングが目指すもの

未来子ども協議会が主催する体験活動の中で、アドベンチャーツーリングは「たくましく育てほしい」「仲間と協力し、信頼関係を築いてほしい」「自分に自信を持ってほしい」というねらいで行われています。そのためには、子どもたち自身を中心に、日頃行わない活動に挑戦すること、挑戦によって「気づき」を得ること、「気づき」によって子どもたちも保護者もスタッフもみんな成長していくことが必要だと考えています。

こうした観点から、アドベンチャーツーリングも、走って終わりではありません。活動は自転車に乗る前の段階から始まります。参加希望者

に対する条件が「全日程に参加できること」とされた理由が、ここにあります。

ドキドキの第1回目 これからどうぞよろしく

初めての活動は6月8日。保護者の皆さんから正式な参加申込書・参加承諾書が提出され、今年のメンバーが決まりました。

開催に先駆け、5月31日には保護者説明会が開催されました。事業の趣旨や目的、内容などを理解していただいた上で参加していただきたいという思いからです。

こうして、小学校1~5年生11人が町公民館に集まりました。初対面の参加者もいるため、初めに自己紹介やアイスブレイク(仲間

づくりのゲームなどを行いました。お互いに打ち解けたところで、ツーリング中のグループ分け。2つのグループができました。その後、ツーリング中に行いたい体験活動決め。子どもたちからは、海釣りや海水浴に挑戦したいという意見が出されました。

海水浴ができるのはどこか いよいよコース決定

前回決めた体験活動、海釣りや海水浴。それができるのはどこ...と考えるとところから始めて、6月29日第2回目の活動ではスタート地点やその後のコースを決めました。

地図と首っ引きで仲間と話し合いながらのコース決め。体験活動を何日目に組み込むのか、1日に自転車で何km走ることができなのか...。考えることはたくさんあります。この日の活動場所は仁多交流センター。途中、周辺を自転車で行く練習もしました。参加者の大部分が小学校低学年。自転車での長距離走には課題も見えてきます。

テントを張って眠る 食事の支度も自分たちで

第3回目は7月20日~21日の1泊2日。桜ヶ丘森林公園オートキャンプ場でテント泊をし、自転車走行

の練習をしました。テントを張るのも、炭をおこすのも、食事の支度をするのも子どもたち自身。また、食材の買い出しも子どもたちで行い、本番に向けてお金の管理のシミュレーションも行いました。親から離れてのテント泊。少し寂しさを抱えた子どももいましたが、仲間と一緒に乗り越えました。

翌日に迫ったスタート 最後の確認も怠りなく

第4回目は8月3日・4日の2日間。5日のスタートに向けて最後の確認です。グループごとに目標やルール、食事の計画を決めました。さらに、持って行く道具を準備・点検し、積み込みを行いました。

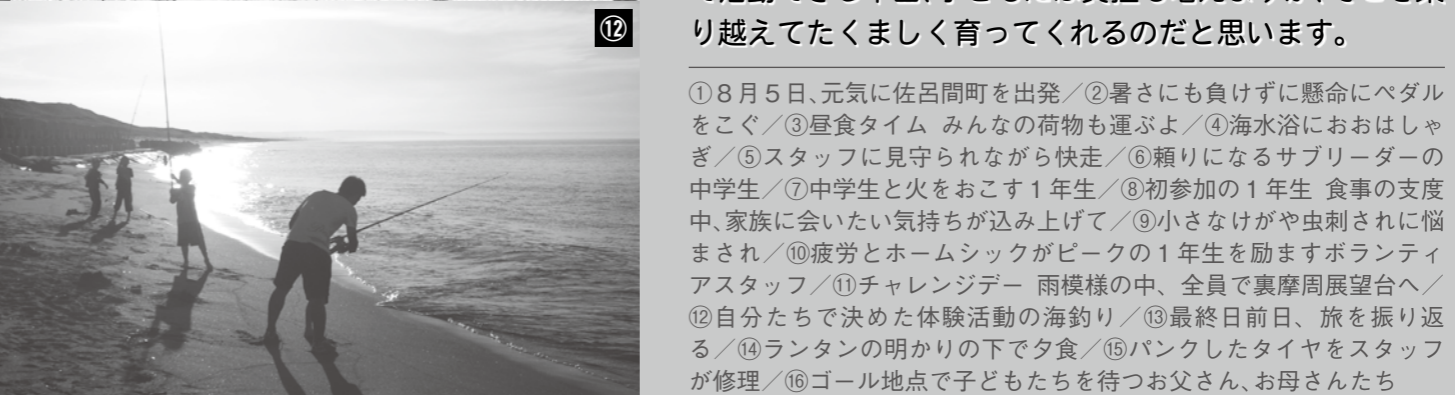
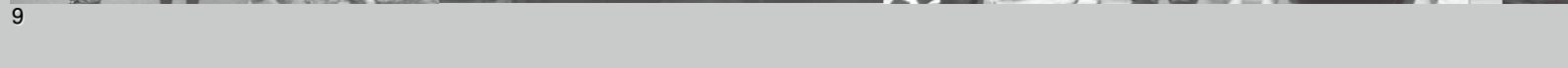
いざ本番 自転車旅の始まり

本番初日の8月5日は、公民館での出発式の後、バスでスタート地点へ移動。お父さんやお母さんが見送る中、バスは出発地の佐呂間町へ向かって出発しました。その後の6泊7日の様子については、次ページからの写真をご覧ください。

12月には活動全体の振り返りを行います。



仲間と走った200km



元気いっぱい！僕らの旅！（アドベンチャーツーリング2013）本番の様子を写真で振り返ります。
 今年も北海道教育大学岩見沢校アウトドア専攻の学生を研修生として受け入れたほか、大学生や高校生のボランティアスタッフに活動を支援していただきました。活動中、スタッフは見守りが中心で、よほどのことがない限り手を出しません。子どもが伸びようとする場面を阻害せず待ち、正解を教えるのではなく「気づき」を与えられるように接することに重きを置いているからです。主体となって活動できる半面、子どもには負担も増えますが、そこを乗り越えてたくましく育ってくれるのだと思います。

①8月5日、元気に佐呂間町を出発／②暑さにも負けずに懸命にペダルをこぐ／③昼食タイム みんなの荷物も運ぶよ／④海水浴におおはしゃぎ／⑤スタッフに見守られながら快走／⑥頼りになるサブリーダーの中学生／⑦中学生と火をおこす1年生／⑧初参加の1年生 食事の支度中、家族に会いたい気持ちが込み上げて／⑨小さなけがや虫刺されに悩まされ／⑩疲労とホームシックがピークの1年生を励ますボランティアスタッフ／⑪チャレンジデー 雨模様の中、全員で裏摩周展望台へ／⑫自分たちで決めた体験活動の海釣り／⑬最終日前日、旅を振り返る／⑭ランタンの明かりの下で夕食／⑮パンクしたタイヤをスタッフが修理／⑯ゴール地点で子どもたちを待つお父さん、お母さんたち